

キャンパス散策 (沖縄キリスト教学院大学・ 沖縄キリスト教短期大学)



校章

沖縄キリスト教学院は、県内初の私立高等教育機関として、1957年に沖縄キリスト教団首里教会を母体として創設されました。過去の深い歴史的反省に立って、聖書の教えを基盤とする、普遍的真理・人類愛・平和を希求する人材の育成を目標としています。当時の授業は首里教会内で行われていましたが、1962年に新校舎が落成し、新しい教室での学びが始まりました。入学者数も年々増加し、新・増築等、教育環境の整備を行ってきました。

しかし、敷地が狭く、これ以上の拡張は困難な状況となったため、首里での33年間の歴史を閉じ、1989年の9月に沖縄本島の中部（西原町）にキャンパスを全面移転しました。眼下には東に太平洋、中城湾、知念半島、西には東シナ海が一望できる風光明媚な小高い丘にキャンパスがあります。

建学の精神を象徴する、学院開学時の首里教会から引き継がれた六角塔を戴くチャペルを正面二階に、その階下に図書館、広場を取り囲むように、北側に事務棟、南側に講義棟、西側に研究棟を配置しています。少人数制のため、殆どが小教室の造りで、その分学生と教員の距離が近く、アットホームな学風を創りだしています。キャンパス中央にある広場は、芝生が敷き詰められ、周囲には様々な植栽が施されています。広場に颯爽と茂る2本の大きなガジュマル（榕樹）は、南国の強い陽射しを遮り、学生たちの休息の場となっています。サンピエトロ寺院を彷彿させるキャンパスの概観と、障がいを持った人にも配慮された設計は、1991年の日本建築学会賞を受賞しています。



広場からのキャンパス風景



チャペルの六角塔

仲里朝章記念チャペル

宗教行事が催される聖堂としてキャンパスの中央に位置するチャペルは、初代学長の遺徳を偲び「仲里朝章記念チャペル」と命名され、今も平和への祈りを人々に伝え続けています。チャペルは、チャーチオルガンと讃美

歌の音色がこだまし、厳かな雰囲気包まれます。その音色はチャペルに集う人々の心を慰め、豊かな心をもたらしてくれます。



チャペル内観



チャーチオルガン

SHALOM (シャローム) 会館

2007年に学院創立50周年を迎え、2009年4月には、記念事業の一環として、2階建ての新校舎が竣工しました。1階には同時通訳設備を有する大教室、多目的教室、大学院研究室、大学院事務室、ゼミ室、普通教室、2階に前田伊都子記念ラウンジ、沖縄キリスト教平和研究所、同窓会・後援会室、子育て支援室、LL教室（2室）、コンピュータ室、自然科学実験室等の施設が備えられています。命名されたSHALOMとはヘブライ語で「平和」を意味します。



SHALOM 会館

キリスト教教育

本学の特色の一つでもあるキリスト教関連科目の講義は、建学の精神であるキリストの教えに対する理解を深めてもらうため、全学生に必修科目として提供しています（8単位）。



クリスマス礼拝

課外活動では、月曜礼拝やサマー聖書キャンプ、アジア・フレンドシップ・キャンプ、クリスマス礼拝があります。月曜礼拝は最も重要な活動となっており、週の初めの朝、教職員や学生、教会関係者がチャペルに集います。聖書を読み、讃美歌を歌い、牧師のメッセージに耳を傾け、心静かに内省する、人間や社会のことを考えるひと時です。メッセージは、学生による日・英同時通訳でも聴くことができます。

新人生オリエンテーションキャンプ

毎年、400名の新入生と教職員が渡嘉敷島で3日間寝食を共にし、大自然の息吹に触れながら交流を深めていきます。

大学という未知の世界に足を踏み入れた新入生たちが、本学の建学の理念で謳われている「平和を創り出す人材」について理解し、本学で学ぶことの意味を考えるためのオリエンテーションです。このプログラムでは、第二次世界大戦時に集団自決となった場所を訪れ、体験者の話を直接聴き、戦争の悲惨さや命の尊さについて学ぶ「平和学習」が行われています。



平和学習



海洋研修

学科・学部紹介

- ・ 沖縄キリスト教短期大学 英語科（入学定員 100 名）
保育科（入学定員 100 名）
- ・ 沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科（入学定員 120 名）
- ・ 沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科
異文化コミュニケーション学専攻（入学定員 5 名）